

第 628 回：【4 年生向け】卒業論文の文献探しのコツ（MK）

夏至が過ぎて夏が近づいてきました。卒業論文に向けた準備は進んでいますか？

普段の授業で課されるレポートと卒業論文にはいくつか違いがありますが、最も大きな違いは、自分で「問い」を立て、その答えを自分なりに考え、文章にしていく点です。そして、その「答え」を支えるために、多くの参考文献を読み込み、それらを根拠にして議論を組み立てる必要があります。

文献を探すうえで最も大切なことは、信憑性の高い情報源から情報を参照することです。

この考え方が広く知られるきっかけとなったのが、アメリカの地方紙『タンパベイ・タイムズ』による当時のトランプ大統領の発言を検証した調査です。彼の発言の正確性を 6 段階で評価したところ、「半分事実」以下と判断されたものが全体の約 8 割を占めるという結果になりました。

このように、インターネット上には誤った情報や根拠の乏しい情報も少なくありません。そのため、卒業論文で参考にする文献は、知名度や発行元のイメージだけで判断するのではなく、信頼性や客観性が担保された情報源を選ぶことが重要です。

では、どのような文献から情報を得るのが良いのでしょうか？書籍はもちろん、それ以外におすすめの情報ソースを載せるので参考にしてください。

●論文

先輩の卒論（図書館で閲覧可能）や学会誌、Google Scholar や CiNii などの論文検索サイ

ト、「レビュー論文」などが有効です。特に良い論文を見つけた場合は、その論文が引用している文献をたどる「芋づる式」の探索も有効です。

●公文書

いろいろな政府機関が発行している「〇〇白書」、日本の基本データは「〇〇年国勢調査」などの統計資料

●国際機関の報告書

「〇〇 Report UN」など〇〇に調べたいキーワードを入れると関連する報告書が見つかります。例：SDGs Report、World Happiness Report

せっかく信憑性のあるデータ元から情報収集して論文に活用したら、内容を覚えていられるうちにその文献の情報を記録しておきましょう。通常、論文の最後に参考文献リストを作成する必要があります、リストは書き方が決まっているので注意しましょう。『よくわかる卒論の書き方』（白井&高橋、2013）に日本語、『英文レポートの書き方とすぐに使える例文集』（石井&喜多&豊岡、2001）に英語で書く際の参考文献の書き方がわかりやすく書いてあるので良ければ参考にしてください。

良い文献を探ることができれば説得力のある論文を書くことができ、自分の主張に自信が付いてきます。文献探しが論文執筆の山場だと思ってコツコツ読んでいきましょう。

第 628 回：【4 年生向け】卒業論文の文献探しのコツ（MK）

参考文献

白井利明 & 高橋一郎 2013 よくわかる卒業論文の書き方 ミネルヴァ書房

立岩陽一郎 & 楊井人文 2018 ファクトチェックとは何か 岩波書店